

---

# スパイシー スパイ

ごはんライス

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

スパイシー スパイ

### 【Nコード】

N4770Z

### 【作者名】

ごほんライズ

### 【あらすじ】

とある小説。小説らしからぬ小説。何かが足りない。

スパイである益田幸一は今、とある国に潜入していた。前を巨大な象が歩いている。その上に小さいおっさんが乗っている。「さて。メシでも食いに行くか」街で明日、花火大会がある。幸一は、その日の夜、この国自慢のパニャニャラーメンを食べていたとき、うっかり床に箸を落としてしまった。幸一はイラっときて壁を叩いた。隣の部屋のやつがやって来て口論になった。「やかましいやつめ」「なに」「幸一は指で、そいつの目を突いた。「うぎゃああああ」床を転がり回る。幸一はケータイで電話した。「あつ華子？相棒録画しといて」「幸ちゃん。華、さびしいよう」幸一はベッドで文庫を読んでいた。筒井康隆である。日本から持ってきたのだ。窓の外で月があくびをしている。幸一はスパイは疲れるからやだなあと考えた。

急に雨が降った。

ざああああ。

幸一は、翌日、プールに来ていた。日韓戦争を仕掛けようとしている人物が来るという情報を得ていた。プールは、西カマンベール区にあった。プールの近くにカレーライスが旨い喫茶店があった。

### PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n4770z/>

---

スパイシー スパイ

2011年12月16日02時50分発行